

黄柏 *Phellodendri Cortex*

(基原) 1) 2) 3) 5) 8)

キハダ *Phellodendron Amurense* Ruprecht 又はその他同属植物 (科名: ミカン科 *Rutaceae*) の周皮を除いた樹皮である。

黄連、キンポウゲ科

カラフトキハダ

- ①同属植物: 日本産はヒロハノキハダ、オオバノキハダ、ミヤマキハダ、韓国産はタケシマキハダ、ビロウドキハダ、中国産はシナキハダ、禿葉キハダ、峨眉キハダ、雲南キハダ、鎌刀葉キハダ、台湾キハダ
- ②採集時期: 夏の土用の頃 (水分を多く含み皮が剥がれ易いため) 皮をほくと黄色い。
- ③植物名の由来: 皮部が黄色ことに由来。
- ④別名: オウボク、オウギ (黄木)、ニガキ (苦木、別の植物もある)、シコロ (北海道地方)、amur cork tree (英名)

(性状) 1)

板状又は巻き込んだ半管状の皮片で、厚さ2~4mmである。外面は灰黄褐色~灰褐色で、多数の皮目の跡があり、内面は黄色~暗黄褐色で、細かい縦線を認めるが平滑である。折面は繊維性で鮮黄色を呈する。

【新修本草図経】 2)

「黄蘗樹高さ数丈、葉はゴシュユに似て紫椿の如くである。皮は黄色で根は松下の茯苓のようである。皮は緊って厚さ二、三分、鮮黄なものが上品である。」

(産地) 1) 2)

- ・国内は北海道、長野、群馬、福井、鳥取、福島、岐阜、石川、新潟など。
国内生産高年間約100トン。
- ・海外からは中国及び北朝鮮産、中国からの輸入高年間約450トン。
中国産①関黄柏: 遼寧 (主産地) 吉林 河北
②川黄柏: 四川 (主産地) 貴州 (主産地) 湖北 陝西 雲南
- ・北里: 四国産、年間約200kg使用

(品質) 1) 4) 8) 9)

- ①幹が太くてあま皮が厚く、色素が濃厚に溜まるものが良品。
- ②ベルベリン (塩化ベルベリンとして) 1.2%以上 (局方規定)
- ③採取時期は夏の土用前後 (7月) がベルベリン量が多く、コルク層もはがれやすいため良いとされている。採取方法は樹皮に切れ目をつけてはがした後、コルク層を除く。

(成分) 1) 2) 3) 4) 5) 7)

アルカロイド: berberine (主成分) palmatine magnoflorine
phellodendrine jateorrhizine

苦味質: obakunone limonin (obakulactone) butenolide

その他: 粘液細胞 (黄柏末に水を加えてかき混ぜるとゲル状を呈するため、黄連末と区別する確認試験に応用)

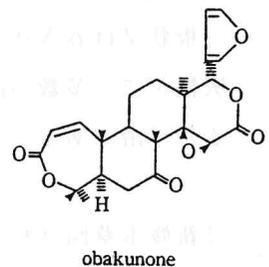
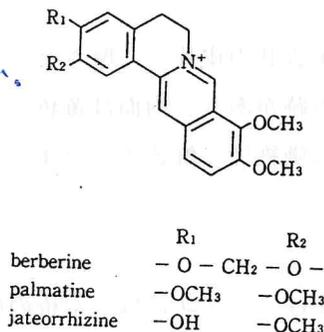
泥状に固まる。

参考: ①ベルベリンは天然にある唯一の塩基性色素。

黄柏... 湿存薬

- ②ベルベリンは最初メギ科ベリベリス属の植物から得られたのでこのような名前が付けられた。

黄連より黄柏の安い。



(現代薬理) 4) 5) 7)

1) 健胃・抗消化性潰瘍作用

ベルベリンはラット皮下投与により、顕著な胃液分泌抑制作用を示し、幽門結紮潰瘍、ストレスによる胃出血や胃潰瘍を抑制した。

2) 止瀉作用

ベルベリンはコレラトキシンによる回腸の水分、塩類分泌による下痢を抑制する作用がある。

3) 消化酵素に対する作用

黄柏熱水抽出エキスはプロテアーゼ活性を抑制し（多くの苦味健胃薬は促進）非特異的なプロテアーゼ阻害作用が推測されている。

4) 抗炎症作用

カラゲニン足蹠浮腫を作製したラット患部に黄柏水性エキスを塗布すると、有意な抑制効果が認められ、その作用もフェニルブタゾンよりも強い。

5) 血圧降下作用

ベルベリンは皮下投与により一過性の血圧降下作用を示した。

6) 抗菌作用

黄柏並びにベルベリンは *in vitro* で各種のグラム陽性菌、陰性菌に幅広く抗菌作用を示す。

7) 皮脂腺への作用

痤瘡ハムスター耳介皮膚を培養し、脂腺での脂質合成に利用されるアセテートの脂腺への取り込みを検討したところ、黄柏はこれを抑制し、脂質合成抑制作用が示唆された。

8) Phellodendrineは12 mg/kgの用量で一次、二次免疫反応を抑制し、また局所移植片に対する宿主反応を抑制し、特異的に細胞性免疫の成立を抑制する。

(古典的薬能・薬効) ^{1) 2) 4) 6)}

神農本草経：中品に薬木（ハクボク）の名で収載。「五蔵、腸、胃中の結熱、黄疸、腸痔を主る。洩痢、女子漏下赤白、陰陽蝕瘡を止める。」

名医別録：黄蘗の名で収載。「驚気皮間に在って、肌膚熱く赤起するもの、目熱赤痛、口瘡を療す。久しく服すれば神に通ず。」

和漢薬図鑑：①古来より止瀉、消炎の要薬。

②中国東北地方の民間では洗眼薬、黄色染料。

③生用降火 塩用下行

④黄柏＋蒼朮＝湿熱足痿 黄柏＋知母＝退熱除蒸

⑤黄芩＝肺熱（上焦） 黄連＝心火（中焦） 黄柏＝相火（下焦）

⑥長 元素の分類＝瀉膀胱竜火・利小便結・除下焦湿腫

・血痢疾 　・臍中痛 　・補腎壯骨髓

中医学：気味は苦寒、帰経は腎・膀胱・大腸で清熱燥湿・瀉火解毒・清虚熱

(その他)

1) 民間薬^{4) 5) 8) 9)}

- ①整腸健胃薬として東北の「熊の胆」、高野山の「陀羅尼助」、木曾御岳山の「お百草」、山陰地方の「練熊」が有名。
- ②粉末を酢で練ってペースト状にしたものは湿布薬。またうがい薬、洗眼用としても利用。
- ③黄柏で染めた紙(黄紙：戸籍謄本や保存文章に利用)や衣類は虫が付かない。また黄柏などの苦寒薬で染めた衣類は皮膚の痒みを抑制する。

2) 『日本薬局方』収載黄柏製剤¹⁾

- ①パップ用複方オウバク散：オウバク末660g、サンシシ末325g、カンフル10g、メントール5g＝全量1000g 用途：打ち身、捻挫
- ②オウバク・タンナルビン・ビスマス散：止瀉・整腸薬

小太郎 黄柏パップ

(該当処方)

痿証方	温清飲	黄連解毒湯	加味四物湯	加味八脉散	荊芥連翹湯
柴胡清肝散	滋陰降火湯	滋腎通耳湯	七物降下湯	清暑益気湯	清熱補血湯
知柏地黄丸	白頭翁湯	八物降下湯	半夏白朮天麻湯	補陰湯	竜胆瀉肝湯

(参考文献)

- 1) 日本薬局方 第12改正 pp.343～345
- 2) 和漢薬百科図鑑 下巻 難波恒雄著 pp.147～148
- 3) 生薬ハンドブック ツムラ pp.18
- 4) 平成薬証論 渡邊武 pp220
- 5) 漢方製剤の知識(Ⅷ) 薬事日報社 ツムラ pp105～112
- 6) 漢薬の臨床応用 神戸中医学研究会 pp100
- 7) 和漢薬物学 大塚恭男 南山堂 pp90
- 8) 和漢薬の選品と薬効 木村雄四郎 pp60
- 9) 日本薬草全書 水野端雄 pp192

1998.1.19.



(文責：金 成俊)